

研究分野		授業科目名				科目責任者	
形態系分野		腫瘍内科学特論Ⅰ・Ⅲ				瀧川 奈義夫	
開講年次		共通／専攻／選択		単位数			
1,2,3,4		特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択		特論Ⅰ：4(2/年), 特論Ⅲ：1/年			
目的							
腫瘍性疾患に関する分子生物学的診断とがん薬物療法を行うための、基礎知識を修得する。							
授業到達目標							
(1) 腫瘍性疾患の診療のなかで疑問をもち、仮説を立てそれを証明するための基礎実験を組むことができる。 (2) 殺細胞性抗がん薬・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬の作用機序、薬物動態を理解し、臨床に応用可能な基礎実験を組むことができる。 (3) 胸部悪性腫瘍・血液疾患の発癌機構および免疫回避機構を解明し、新規治療法開発の基礎研究を組むことができる。							
授業計画							
回数	月日	曜日	時間	担当者	区分1	区分2	授業内容
1	毎月	第1金	17:30-18:30	瀧川 奈義夫	講義	[抄読会]	肺がん分子生物学の基礎研究に関する英文文献を紹介し討論する。 [場所:総合医療センター11階西カンファレンス室]
2	毎月	第2金	17:30-18:30	山根 弘路	講義	[抄読会]	腫瘍免疫学の基礎研究に関する英文文献を紹介し、討論する。 [場所:総合医療センター11階西カンファレンス室]
3	毎月	第3金	17:30-18:30	中西 秀和	講義	[抄読会]	血液腫瘍の分子生物学の基礎研究に関する英文文献を紹介し討論する。 [場所:総合医療センター11階西カンファレンス室]
4	毎月	第4金	17:30-18:30	越智 宣昭	講義	[抄読会]	分子生物学の実験手法について、英文文献をもとに討論する。 [場所:総合医療センター11階西カンファレンス室]
評価方法							
<b>【特論Ⅰ】</b> (1) 1年間※で、講義は30時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 (2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。 <b>【特論Ⅲ】</b> (1) 1年間※で、講義は15時間出席し、科目責任者から履修手帳に出席印をもらい、提出する。 (2) 1年間※で、論文紹介または症例発表を2回行い、その要約2編を提出する。 ただし、特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものと異なる論文(症例)であること。 特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。 ※1～3年生は2月末まで、4年生は11月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。42・43頁:単位履修方法参照。							
課題(レポート等)に対するフィードバック							
紹介論文の理解内容を諮問、あるいは要約を添削する。							
教科書							
ISBN-9784524227396, 新臨床腫瘍学(改訂第6版), 日本臨床腫瘍学会, 南江堂, 2021							
参考書							
ISBN-9781496394651, DeVita, Hellman, and Rosenberg's Cancer: Principles & Practice of Oncology (11th Edition), Vincent T. DeVita, Jr. et al., Wolters Kluwer Health, 2018							
準備学習(予習・復習等)							
(1) 自身の研究に関する英語論文を読み、理解したことを説明すること。 (2) 講義の後、7日以内に論文の要点を提出すること。							
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連							
課題を探究し、仮説立脚、検証に至るまでの科学的方法論・思考法を知悉する。							
注意事項・メッセージ							
年に一度の学会発表を行うこと。							